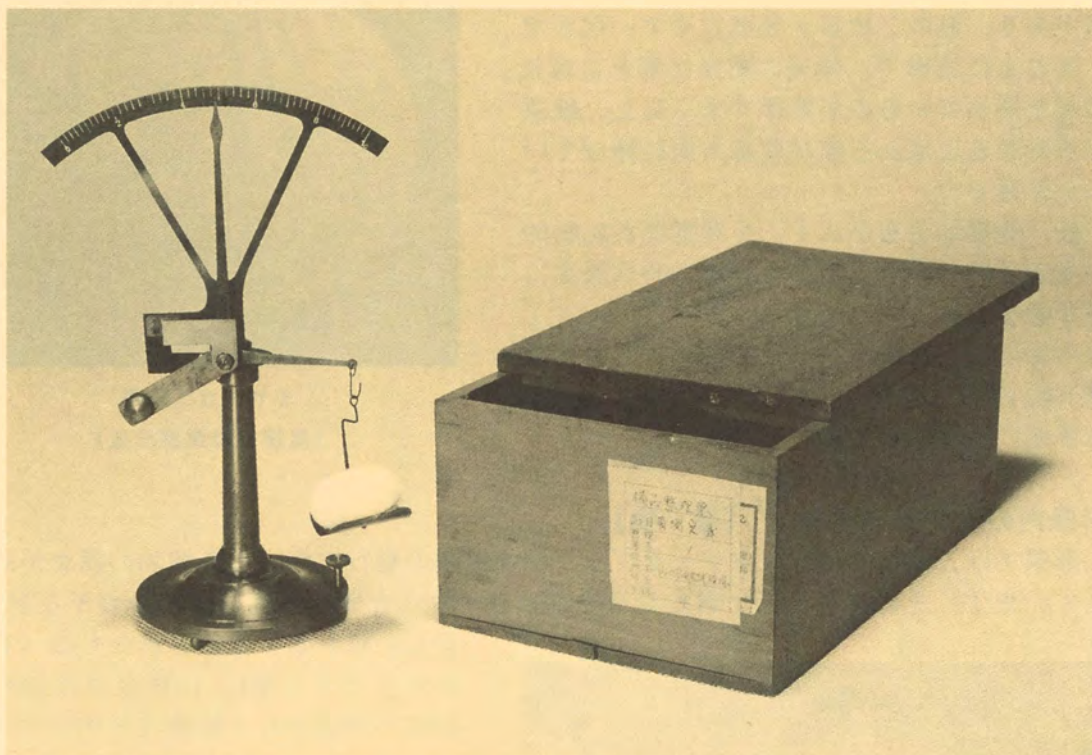


平成13年度企画展

館 蔵 品 展

平成14年2月9日（土）～ 3月17日（日）



繭測定器

開催にあたって

この企画展は、博物館資料の収集・調査研究のまとめとして毎年開催するものです。

この度は、地学・動物・植物・歴史・民俗・教育の6部門の中から、常設展示では見られない貴重な資料や話題性のある実物資料を紹介します。本展をとおして、山形県の自然や文化に対する新たな理解が深まれば幸いです。

本展を開催するにあたり、貴重な資料をご寄贈いただいた方々、情報を寄せてくださった方々に、厚くお礼申し上げます。

山形県立博物館

展 示 解 説

山形県産イタヤガイ科化石(二枚貝) 【地 学】

山形県内からは、多くの貝類化石が産出しており、山形の大地がかつて広く海におおわれていたことを教えてくれます。

その中で、イタヤガイ科の化石は、形態的に特徴があり、他の二枚貝と区別しやすい化石です。形は主に扇形で、殻頂の前後に耳とよばれる突起を持っているのが特徴です。また、殻頂から放射肋とよばれる筋が腹縁方向に伸びているのが普通です。

一般に地理的分布が広く、生存期間が比較的短いものが多いので、地層の対比や時代決定に重要な意味を持つ化石のひとつです。

県内からは、新第三紀中期中新世から後期鮮新世(約1,500万年前から約300万年前)に相当する各地の地層から産出しています。



ミヤトコニシキ
(真室川町栗谷産)

山形県内の稀少植物標本 【植 物】

山形県では、来年度のレッドデータブック山形県版の発行に向けて動植物の調査が進められています。その調査過程で新たな自生地が見つかった野生植物(ツクシガヤなど)、

新しい種として記載されたもの(ヒョウタンボク2種)、山形県では初めて自生が確認された植物(タチハコベなど)を展示します。新種として記載された中でも、ウゼンベニバナヒョウタンボクは、液果が球形でなく、だ円形になっている点が世界に類を見ない種です。

野外での調査の他に、ある植物がどの程度減少しているかを知る上で、本館に収蔵されている標本を再鑑定することも大切です。その結果、標本の記載とは異なる種であることが分かり、山形県の植物の戸籍に変更があったもの(ヤブマオ類)も展示します。



ウゼンベニバナヒョウタンボク
(高橋信弥氏撮影)

鳥類剥製標本 【動 物】

今年度、本館の周辺と山形市内で、渡りや移動の時期に事故に遭い収集されたトラツグミ、アカショウビン、ツツドリの3種を展示します。

○トラツグミ

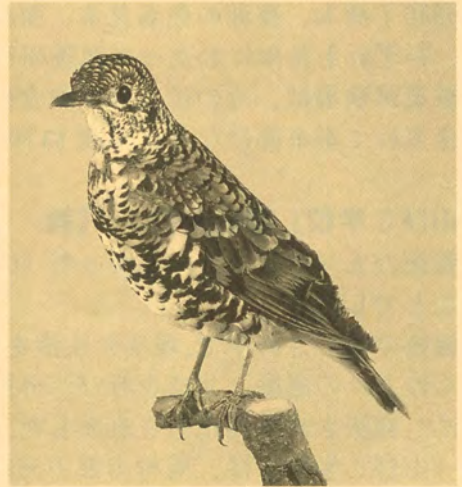
ツグミ類の中でも最も大きい種類で、黄かっ色と黒のうろこ模様が目立つ美しい中型の鳥です。日本では漂鳥(ひょう)または留鳥(りゅう)で、山形県内では一部越冬しています。

○アカショウビン

成鳥は全身赤色で、姿・鳴声とも特徴のある種類です。日本に夏鳥として渡来します。近年、生息数が減少しています。

○ツツドリ

カッコウの仲間で、カッコウによく似ていますが、鳴声はポン・ポン・ポンと特徴があります。夏鳥として渡来し、自分では巣をつくらず、メボソムシクイなどに托卵(たくらん)します。



トラツグミ

江戸時代の支配関係文書 【歴史】

江戸時代には、幕府や藩の財政と武士たちの生活は、領内から納められる年貢によってまかなわれていました。そのため、幕府や藩では領内の土地と人々の支配に力をそそぎました。幕府も藩もさまざまな帳簿を作って土地や人々を把握し、厳しい規則を作って守らせました。



網取村検地帳

今回は、故長井政太郎氏の収集資料の中から、幕府や藩の支配を物語る代表的な検地帳・宗門人別改帳・五人組帳・村明細帳などの簿冊や年貢割付状・皆済目録・寺請証文・村払手形などの書状を取り上げて、支配制度の実際にせまろうとするものです。

山形県蚕業試験場関係資料 【民俗】

村山市楯岡にある山形県立農業試験場蚕糸部（元山形県蚕業試験場）より、38点にのぼる貴重な蚕糸関係資料を受け入れました。蚕業試験場は、大正2年に山形市に山形県原蚕種製造所が設置されたことに始まり、本県の蚕業振興に大きな役割を果たしてきました。

その資料には、ワラマブシ・繭毛羽取機などの養蚕道具類、繭の品種標本・生糸標本・天蚕繭などの標本・見本類、蚕病予防図・蚕業普及便りなどの資料類が



蚕卵胚子標本

含まれますが、特に試験場において使用された多くの検査・検定機器類が注目されます。蚕卵胚子標本、蚕卵の色名見本、蚕病原菌標本、繭測定器、測風器、繭検定袋など 16 点で、いずれも長年にわたって試験研究や繭検定などの業務に使用されてきたものです。

蚕業試験場は、その後、蚕糸総合研究センターに改組し、さらに山形県立農業試験場に統合されて蚕糸部になり、平成 13 年 3 月にその役割を終えることになりました。

「山びこ学校」関係資料 【教育】

戦後の大ベストセラーとなった「山びこ学校」が出版されたのは、昭和 26 年（1951 年）のことでした。

戦後の苦しさの中で、現実の生活をしっかり見つめてたくましく生きる子供たちの姿は、多くの人々の感動と共感を呼び、外国語にも翻訳され映画化もされました。

「山びこ学校」は、南村山郡山元村（現上山市）の中学生 43 人が自分たちの生活を綴った作文や詩、社会科レポートを集めたものです。指導したのは、青年教師無着成恭でした。

出版から半世紀を経た現在、この本の母体となった文集「きかんしゃ」を始めとして、関係資料は貴重なものとなっています。



「山びこ学校」と「きかんしゃ」

主な展示資料

山形県産イタヤガイ科化石	20	本館所蔵	鳥類剥製標本		
ウゴホタテガイ			トラツグミ	1	本館所蔵
ノムラツキヒ			アカショウビン	1	本館所蔵
ムカシチサラガイ			ツツドリ	1	本館所蔵
マツモリホタテ			山形県産シャクガ類標本	1,100	本館所蔵
ミヤトコニシキ			江戸時代の支配関係文書	16	本館所蔵
ホタテガイ ほか			久野本村年貢割付状		
山形県内の稀少植物			東根村宗門人別改帳		
ツクシガヤ	1	加藤信英氏採集	網取村検地帳 ほか		
ヤブマオモドキ ほか	2	〃	県蚕業試験場関係資料	30	本館所蔵
カワヂシャ ほか	2	沢 和浩氏採集	マブシ・生糸標本・		
ウゼンベニバナヒョウタンボク	1	高橋信弥氏採集	蚕病原菌標本 ほか		
(新種)			「山びこ学校」関係資料	15	本館所蔵
クロブシヒョウタンボク	1	〃	「山びこ学校」初版本		
(新種)			「きかんしゃ1」原本		
タチハコベ(新帰化) ほか	3	〃	映画シナリオ ほか		